



ならっ子だより



やくしじ い とうとう かこ
薬師寺に行ったら、東塔が囲いにおおわれていて見られなかったよ。

いま こうじ
東塔は今、工事をしているみたいだよ。どんな作業をしているのか知りたいね。



薬師寺東塔の解体修理

人々の手によって受け継がれてきたもの

奈良には古い建物や仏像などがたくさんあります。例えば薬師寺の東塔。今から約1,300年前、奈良に都があった頃から建てています。この古い建物は、偶然残ったものではありません。人の手によって何度も修理が行われ、いくつもの時代を超えて、その姿を保ち続けているのです。

現在、解体修理が行われている薬師寺の東塔では、瓦を下ろし、木材をバラバラにして一つ一つ点検します。そして、傷みのひどいものは新しいものに取り替えますが、今まで使われていた材料をできる限り使って建て直します。

新しい木材を加工するときには、昔と同じ道具が使われます。右の写真は、槍鉋という、材木の表面をきれいに削る道具です。この道具を上手に使えるようになるには10年以上も修行をしなければなりません。機械を使って木を削ることもできますが、昔と同じ仕上がりにするためにはこの道具が必要です。昔と同じ方法を取り入れ修復することで、建物を造った人の心も次の時代に受け継いでいくことになるのではないのでしょうか。

この解体修理は平成30年に終わる予定です。5年後、昔の人の心や技術、それを伝える人々の思いが込められた東塔は、どのような姿を現すのでしょうか。今から楽しみです。



薬師寺東塔（解体修理前）



解体修理中の東塔（瓦下ろし）



解体修理で使われる槍鉋



このように使います

また、「『平城つ子応援団』交流会」を開いて、支援していただいている方々と保護者と学校職員とが交流し、子どもたちをみんな（地域・学校・家庭）で育てていく道筋を探りました。「いつも笑顔があふれる平城小学校」「平城小学校で学んだことを誇れる子」をめざして。



学校紹介

平城小学校の巻

本校の子どもたちの愛称は、『HGK647』（H「平城小」、G「がんばる」、K「子どもたち」、647は全校児童数）です。①元気に学校へ行きたい、②勉強が分かりたい、③友だちと仲良くしたい、という子どもたちの願いをかなえるために、「考える子・支え合う子・丈夫な子」という子ども像を掲げています。

『HGK647』には、たくさんの方々がいます。『平城つ子応援団』がいます。「米・みそづくり」、「青バト隊」、「クラブ活動指導」、「読みきかせ」、「花づくり」、「おやじの会」など、たくさんの方々が、子どもたち・保護者・学校を後押ししてくださっています。昨年度の「平城つ子フェスタ」に続いて、今年度は、「平城・食と農」のフェスタを地域の方々とともに開催し、多くの地域住民・保護者が参加しました。



キッズ学びのフロアのプログラムは、1月号13ページで案内しています（ホームページにも掲載）。